

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド

東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は一段と上値を追う展開か

[ 4月5日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		3月29日～4月2日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.65	110.97(31)	109.37(29)	110.45	+0.81
ユーロ・ドル	1.1797	1.1798(29)	1.1704(31)	1.1780	-0.0014
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	29,854.00	+677.30	日本10年債利回り	0.124	+0.041
ダウ平均株価	33,153.21	+80.33	米10年債利回り	1.740	+0.107
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 5日 米3月ISM非製造業景況指数  
米2月製造業受注
- 6日 日本2月勤労者世帯家計調査  
豪中銀 (RBA) 政策金利  
ユーロ圏2月雇用統計  
国際通貨基金 (IMF) 世界経済見通し発表
- 7日 日本2月景気動向指数速報値  
独3月非製造業PMI  
ユーロ圏3月非製造業PMI  
英3月非製造業PMI  
米2月貿易収支  
カナダ2月貿易収支  
カナダ3月Ivey購買部協会指数  
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録 (3月16～17日分)
- 8日 日本2月経常収支  
独2月製造業受注指数  
ユーロ圏2月生産者物価指数  
米新規失業保険申請件数  
パウエルFRB議長 IMFのパネル討論会参加
- 9日 中国3月消費者物価指数、中国3月生産者物価指数  
スイス3月雇用統計  
独2月鉱工業生産指数、独2月貿易収支、独2月経常収支  
米3月生産者物価指数  
カナダ3月雇用統計

【前回のレビュー】ドル円は米長期金利、日米の株価、米経済指標、新型コロナウイルスの感染再拡大の報道などに左右される展開か。ただ、大きな崩れはないとみられ、さらに109円を超えて大きく上値を伸ばす動きは見込みにくく、引き続き108～109円台での振幅になるとした。

【米長期金利の上昇がドル円の支援材料に】

米長期金利の上昇傾向が続いており、米国など各国の株式市場では警戒感が広がっている。米10年債利回りは3月18日に一時1.75%前後まで上昇した後、いったん1.60%前後まで低下した。ただ、その後は再び上昇に転じており、3月30日には一時1.77%台まで上昇を見せた。米長期金利の上昇は特にハイテク株中心のナスダックには重石となっている。

米国では3月31日にバイデン米大統領が8年間で総額2兆ドル規模となるインフラ投資計画を発表しており、これが景気回復への期待感や米長期金利の上昇につながっている。1日に米国株は上昇しており、S & P 500は節目の4000を初めて突破した。

米10年国債利回りは今年年初に0.90%前後だったものの、そこから2倍近くの水準まで上昇している。米国での1.9兆ドル規模の大型の新型コロナウイルス対策に加えて、ワクチン接種が広がり、さらに2兆ドル規模のインフラ投資計画などにより、景気回復への期待感の高まりが背景にある。ただ、長期金利の上昇ペースが速すぎること、株価への調整圧力となっている。

米長期金利の上昇はドルの支援材料となっており、ドル円やドルインデックスは上昇基調で推移してきた。ドル円は3月31日には111円目前まで上昇するなど上値を追い展開となった。111円手前では上値を抑えられて伸び悩みを見せている。

バイデン政権の掲げる2兆ドル規模のインフラ投資計画は発表されたものの、巨額な投資の財源は法人税率の増税（21%から28%へ）で賄うとしている。巨額の財政支出に伴って共和党の反対も予想され、実現へ向けてはハードルも高いと想定される。今後は本件に関連する報道で株価やドルの動きが一喜一憂する可能性も出てきそうだ。

米長期金利の上昇に関して、米連邦準備制度理事会（FRB）の当局者からこれをけん制するような発言がほとんど出ていない。景気が回復に向かえば、長期金利が上昇するのは自然な流れ、と長期金利の上昇を容認する姿勢が見受けられる。このため、米長期金利は伸び悩みを見せることはあっても、一気に低下するような事態は想定しにくく、ドル円を支える要因となりそうだ。

ドル円は米長期金利の動向や、米経済指標や日米の株価に左右されやすい動きが継続するとみられる。ドル円は上昇が続いてきたことで、テクニカル面での過熱感も台頭しつつあるが、米長期金利の先高観などを背景に底堅く推移して、一段と上値を追い可能性が高いとみられる。111円を突破して、さらに上値を試す展開か。ドル円の目先の予想レンジは、109.00～112.25円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、5日に米3月ISM非製造業景況指数、米2月製造業受注、6日に日本2月勤労者世帯家計調査、7日に日本2月景気動向指数速報値、米2月貿易収支、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録（3月16～17日分）、8日に日本2月経常収支、米新規失業保険申請件数、9日に米3月生産者物価指数などがある。

#### 【ユーロドルは下落基調が継続か】

ユーロドルは下落基調で推移している。米長期金利の上昇のため、対ユーロでドルが買われていることに加えて、欧州では米国と比べてワクチン接種の遅れが指摘されており、これがユーロドルの売り圧力の一因となっている。

欧州では新型コロナウイルスの感染再拡大が続いており、フランスではパリなどで行っていたロックダウン（都市封鎖）を3日より全国に拡大すると発表した。ドイツやイタリアでも感染者数は拡大傾向にある。こうした点から、ユーロドルは一時的に戻しても下落基調に変化はないとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1550～1.1850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、6日に豪中銀（RBA）政策金利、ユーロ圏2月雇用統計、7日に独3月非製造業PMI、ユーロ圏3月非製造業PMI、英3月非製造業PMI、カナダ2月貿易収支、カナダ3月IVEY購買部協会指数、8日に独2月製造業受注指数、ユーロ圏2月生産者物価指数、9日に中国3月消費者物価指数、中国3月生産者物価指数、スイス3月雇用統計、独2月鉱工業生産指数、独2月貿易収支、独2月経常収支、カナダ3月雇用統計などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。